

## 第16期うきたむ学講座総括実行委員会開催の結果報告

令和6年12月15日に開催した上記会議では運営委員会で決定した「会議資料」に基づき、委員長及び事務局からの開催案の説明がなされ、明確な誤りなど一部を訂正した上で承認された。今後は、講師の先生と連絡を取り「演題」、肩書きを確認した上で、1月上旬にチラシを作成し、各方面に配布することで了解が得られた。

### 17期以降の会の持ち方

- 1 年2回の開催については次年度も続ける。
- 2 出席した委員の方からは次年度以降のテーマや演題について次の様な意見が出された。
  - 1) 山形大学の阿部宇洋氏が草木塔についての再考を促す発言をされている。この辺のお話を聞きたい。
  - 2) 米沢市では山城の赤色立体図を作成しており、その成果も出始め、新たな城館も見つかっている。この方法と成果の見通しについての話もいいのではないか。
  - 3) 近世陶磁の特に「戸長里」の窯と製品について新たな視点、成果が出ている。これについて話してもいい。
  - 4) 最近の考古学的な調査で米沢市舘山城、南陽市南森遺跡、南陽市北町遺跡で成果が上がっている。これらのお話してもいいのではないか。
  - 5) 城館といえば米沢市在住の「まーpさん」こと櫻井真さんもいい仕事をなされている。声をかけて、来年度以降の講師や実行委員に就任していただくことを考えたらいいいのでは。
  - 6) コロナ前の講座では鉾山を取り上げるとかつての仕事仲間の方々の参加が多くなり、これまでの講座とは違った賑わいがあった。五十公野裕也氏にかつて高島町周辺の鉾山についてお話ししていただいたが、置賜の各市町の鉾山についてお話ししていただければ数年は埋められるのではないか。現在の所属・連絡先がどうなっているか不明だが、声掛けをしていただけないか。
  - 7) 昆虫の「横倉明」氏、鳥類写真家の「真木広造」氏のお話も面白そう。内水面水産研究所の方のお話しも面白そう。
  - 8) 自然と人文係わりについて、「自然利用」とも言えるかもしれないが、その辺のお話してもいいのではないか。

### 実行委員について

これまでの実行委員の方に開催案内を出しているが、出欠の返信がない方も少なくない。2年以上返信がない方、講座への出席のない方には、今後案内を出さないということでもいいか。→それでいい。

# 第XVI期うきたむ学講座実行委員会次第

令和6年12月15日

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

1. 開会のあいさつ(事務局長)
2. 実行委員長あいさつ(吉田委員長)
3. 報 告
  - (1)うきたむ学講座運営委員会の結果
4. 協 議
  - (1)第XVI期うきたむ学講座の持ち方について
    - ①第XVI期うきたむ学講座実施計画(案)
    - ②第XVI期うきたむ学講座予算案について
    - ③その他
  - (2)その他
5. 閉会のあいさつ(岩崎副委員長)

## 実行委員

委員長 吉田 歆(○)・副委員長 岩崎義信(○) 高梨善三郎(×)  
委 員 青木慶一(×)・井田秀和(×)・大内紀子()・蛭原一平(×)・海藤 元(×)・角田朋行((×))  
・菊地政信()・桐澤民雄()・小林貴宏()・佐藤庄一()・佐藤公保(○)・島崎正弘()  
・島津憲一(×)・角屋由美子(×)・清野春樹(×)・高橋 拓(○)・高橋信博()・月山隆弘()  
・手塚 孝()・二宮美夫(○)・秦 昭繁(×)・守谷英一()・益田則雄()・渡部真治()

## うきたむ学講座について

### 1. 講座開設の経緯

置賜地方における原始・古代・中世・近世の歴史を広い視野から見直すと共に、置賜各地で歴史・民俗・自然等の解明および保護などに取り組んでいる団体や個人が交流し合うことを目的として平成 18 年度に開設し、令和 2 年度から新型コロナの感染拡大により、休止していたが、昨年度から再開しました。

運営の主体はうきたむ学講座実行委員会で、置賜各地の趣旨に賛同する方々が結成している。

### 2. 主 催 うきたむ学実行委員会

委員長：吉田 歆 副委員長：岩崎義信、高梨善三郎

委 員：・青木慶一・井田秀和・大内紀子・蛭原一平・海藤 元・角田朋行・菊地政信  
・桐澤民雄・小林貴宏・佐藤庄一・佐藤公保・島崎正弘・島津憲一・角屋由美子  
・清野春樹・高橋 拓・高橋信博・月山隆弘・手塚 孝・二宮美夫・秦 昭繁  
・益田則雄・守谷英一・渡部真治

### 3. 共 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

### 4. 主 管 うきたむ学講座運営委員会

委員長：吉田 歆 副委員長：岩崎義信、高梨善三郎

委 員：・小林貴宏・菊地政信・佐藤庄一・島崎正弘・島津憲一・角屋由美子  
・秦 昭繁

### 5. 講座の内容

- ①置賜地方の考古・歴史を中心に、時には自然・民俗におよぶ広範なものとする。
- ②中心の時代は原始・古代・中世に置くが、必要により近世にも範囲を広げる。
- ③各講座の形態は、講義・発表・パネルディスカッションとする。

### 6. 講座の持ち方 1月・2月・3月の各月1回とする。ただし、令和6年度も令和6年2月2日(日)・3月2日(日)の2回開催とする。

### 7. 会 場 山形県立うきたむ風土記考古資料館研修室

### 8. 経 費

受講者1名につき600円の受講料をもって、運営経費とする。

### 9. その他

本要項にない事項については、運営委員会の協議および主催者の判断によって決める。

## うきたむ学講座実行委員会規約

### [趣旨]

第1条 置賜地方の歴史解明および歴史理解の普及を広い視野から幅広く推進するため、置賜地方の歴史等関係者および団体が相集い研修し合うことを目的とする。

### [名称]

第2条 この会の名称を「うきたむ学講座実行委員会」と称する。

### [組織]

第3条 趣旨に賛同し、講座を支える意思を有する実行委員で組織する。

### [活動]

第4条 趣旨を達成するための「うきたむ学講座」を山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館と共催し、かつ必要な活動を行う。

### [実行委員]

第5条 実行委員は、本会の活動を代表者を通じて運営するとともに、会の活動に参加し、一般市民の参加を呼びかける。

### [役員]

第6条 本会に次の役員をおく。

- (1) 実行委員長 1名
- (2) 副実行委員長 2名
- (3) 運営委員 若干名
- (4) 事務局員 若干名

### [機関]

第7条 本会の運営のため、次の機関を置く。

- (1) 実行委員会(全体会) 定例会を年1回開き、方針および活動計画を決定する。
- (2) 運営委員会(役員会) 正副実行委員長・運営委員・事務局員をもって構成し、実行委員会で定められた事項に基づき会の運営を行う。
- (3) 事務局 正副実行委員長の指示に基づき実行委員会および役員会に関する事務等の協議を行う。

### [会計]

第8条 本会の会計は、うきたむ学講座受講費その他の収入をもって充てる。受講費は当分の間600円とする。

### [事務局]

第9条 本会の事務局は、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館に置く。

## うきたむ学講座実行委員名簿

No.	氏名	役職	所属等
1	青木 慶一		長井古文書研究会事務局
2	井田 秀和		元高島町教育委員会
3	岩崎 義信	副委員長	長井市観光文化交流課長井市史編纂専門員
4	大内 紀子		白鷹町教育委員会
5	蛭原 一平		小国町教育委員会
6	海藤 元		長井市観光文化交流課
7	角田 朋行		南陽市教育委員会社会教育課
8	菊地政信	運営委員	元米沢市教育委員会職員
9	桐澤 民雄		うきたむ考古の会会員
10	小林 貴宏	運営委員	高島町教育委員会社会教育課 うきたむ考古の会幹事
11	佐藤 庄一	運営委員	山形考古学会顧問
12	佐藤 公保		米沢市教育委員会社会教育文化課
13	島崎 正弘	運営委員	高島町文化財保護会顧問
14	島津 憲一	運営委員	高島町文化財保護会会長
15	角屋 由美子	運営委員	稽照殿館長 米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長
16	清野 春樹		置賜民俗学会会員
17	高梨 善三郎	副委員長	うきたむ考古の会副会長
18	高橋 拓		地域文化資源活用工房ロフト 代表
19	高橋 信博		山形県農山漁村地域づくりプランナー
21	月山 隆弘		川西町文化財保護協会副会長
20	手塚 孝		元米沢市教育委員会 まんざり会会長
21	二宮 美夫		元高島町文化財保護会会長
22	秦 昭繁	運営委員	考古学研究者
23	益田 則雄		小国町文化財調査員
24	守谷 英一		置賜民俗学会
25	吉田 歆	委員長	米沢史学会事務局長 米沢女子短期大学教授
26	渡部 眞治		徳太郎文庫長
	渋谷 孝雄	事務局	考古資料館館長

(委員名は五十音順)

# 多様な視点で置賜を観る！

## ◇◇◇◇第XVI期うきたむ学講座のご案内◇◇◇◇

置賜地方の歴史や自然・民俗について理解を深め、関連団体の情報を交換し、置賜の歴史文化・自然遺産を大事にする目的で始まった講座です。

再開2年目のXVI期は置賜の伝統的ななりわい・置賜の自然をテーマとして2回の講座を開催することと致しました。置賜地域を多様な視点で捉える試みに、多くの方々の御参加をお待ちしています。

令和7年2月2日・3月2日(各日曜日)

第1回講座：令和7年2月2日(日) 13:00-16:00

開講式(実行委員長開講の辞・主催者挨拶) 13:00-13:15

—「置賜の伝統的ななりわい」をテーマとして—

■講座①「天蚕繭の生産という生業」

守谷 英一氏(置賜民俗学会会長) 13:20-14:30

■講座②「小国マタギの現状と課題」

草刈 広一氏(NPO法人 飯豊朝日を愛する会理事長)

14:45-15:55

第2回講座：令和7年3月2日(日) 13:00-16:00

主催者挨拶(実行委員長) 13:00-13:10

—「置賜の自然」をテーマとして—

■講座③「置賜の魚類一魚類相の成り立ちの歴史とヒトの関わり」

半澤 直人氏(山形大学名誉教授) 13:10-14:20

■講座④「置賜の歴史的救荒植物・かてものについての一考察」

島津 憲一氏(高島町文化財保護会会長) 14:35-15:45

閉講式(実行委員長閉講の辞・主催者挨拶)

◎主催 うきたむ学講座実行委員会・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

◎会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室

◎受講料 1回につき600円

◎対象 どなたでもご参加できます

■受講申込み 文末の要領をお願いします。

## ■うきたむ学講座実行委員会

委員長：吉田 敏 副委員長：岩崎義信・高梨善三郎

委員：青木慶一・井田秀和・江口儀雄・蛭原一平・海藤 元・角田朋行・菊地政信・桐澤民雄  
・小林貴宏・佐藤庄一・佐藤公保・島崎正弘・島津憲一・角屋由美子・清野春樹・高橋 拓  
・高橋信博・手塚 孝・二宮美夫・秦 昭繁・益田則雄・渡部真治

事務局：渋谷孝雄

## ■問い合わせ等（事務局）

〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津 2117

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

TEL0238-52-2585 Fax0238-52-4665

## 第ⅩⅢ期うきたむ学講座受講申込みについて

- (1) 下記申込書を郵送、もしくは FAX(0238-52-4665)、email:[ukitamugakukouza@ukitamu.pupu.jp](mailto:ukitamugakukouza@ukitamu.pupu.jp) でお申し込み下さい。電話申し込みも可。
- (2) 申込み期限は希望する受講日の一週間前まで。全受講の場合は下記申込書の全2回に○をつけてください。
- (3) 受講者の受講料は一回ごと 600 円、(全2回は 1, 200 円)は当日受付でお願い致します。
- (4) なお、上記の申し込みが間に合わなかった場合は、当日受付での申し込みでも受講できます。

----- 切り取り線 -----

## 第ⅩⅥ期うきたむ学講座受講申込書

受講内容(\*あてはまるものに○をつけて下さい)

1. 全2回
2. 第1回講座(2月2日)
3. 第2回講座(3月2日)

上記の通り申込みます。

令和 年 月 日

氏名( ) 電話番号( )

住所( )

第 XVI期 う き た む 学 講 座 予 算(案)

2024.11.10

	費 目	予 算 額	前 回 決 算 額	摘 要
収 入	負担金	48,000	49,845	考古資料館自主事業委員会
	受講料収入	30,000	9,600	@600×50名
	資料頒布	200	400	
	計	78,200	59,845	
支 出	謝 金	48,000	48,000	講師謝金 4名分(2回開催)
	旅 費	10,000	7,000	講師交通費
	賃借料	7,500	7,500	施設使用料(@150×50名)
	通信運搬費	5,000	2,646	切手・メール便・振込手数料
	消耗品費	7,700	0	
	計	78,200	65,146	

\*内訳

- ①講師謝金 @12,000円×4 .....48,000円
- ②講師交通費 @4,500円×1+@3,200円×1+@3,000円×2.....13,700円

交通費 支給基準(実際は発地・着地間の距離×2×37円で計算)

天童.....講師4,500円  
 山形・上山.....講師3,200円  
 長井・白鷹・小国.....講師3,000円  
 米沢・川西.....講師2,000円  
 南陽・高畠.....講師1,000円

(運営委員・実行委員については平成23年5月14日総括実行委員会の決議により支給しない事となっている)

- ③資料代 受講しないで資料のみの場合:資料代を受講料と同額徴収する。  
 ※講師1名分200円に変更してはかがか。